

平成31年度 学校経営方針 「一体感」

多摩市立南鶴牧小学校
校長 関口 寿也

1 はじめに

近年、児童を取り巻く環境の変化は、とみに激しさを増しています。

しかし、創立38年を迎える南鶴牧小学校には、子供のことを第一に思い、教職員をおもんばかり、母校であることを「誇りに思う」とさえ告げてくる地域・保護者の方々がいます。また、芝生の維持管理を行っている「Gネット」や市内で早期に設立された「おやじの会」、花のボランティア「ひまわり」、校庭開放利用団体である「サッカー」や「野球」「バレーボール」「ミニバスケット」等々、これまで本校を支えてきてくださった方々も多くいます。

そのような地域・保護者の皆様のために、そして何よりここに集う子供たちのために、私たちは教育活動を粛々と実践していく使命があります。学校が子供の教育への発信者としての中核的役割を担い、地域、家庭、外部機関とより一層緊密な連携を図り、未来への人材の育成を推進していかなければなりません。それこそが、本校が持続発展可能な学校として進んでいく意義となります。

「一体感」とは、教職員と子供たち、教職員と保護者たち、保護者たちと子供たち、学校と地域、学校と諸施設・諸機関との意図ある連携です。南鶴牧小学校に関わる全ての方々との「一体感」を意識し、創造していくことで、南鶴牧小学校を「世界で一番好きな学校」と胸を張って誰もが言えるよう、今年度も邁進していきます。

2 学校経営の基本理念

- (1) 子供の側に立った教育活動を推進し、生きる基盤となる「知」「徳」「体」を育む。
- (2) 持続可能な社会づくりに資する人格形成を、卒業までのスパンで意識し行う。
- (3) 諸施設、人材といった地域資源・環境資源や家庭と連携・協力し、教育力の相乗効果を生む。

3 学校教育目標

◎かしこく なかよく たくましく

4 教育目標の達成に向けて

(1) 「かしこい」児童を育てるために

① 「学習規律の確立」

- (ア) チャイムで始まりチャイムで終わる授業。
- (イ) 学ぶ姿勢、意欲の保持。
- (ウ) 教室環境の整備・維持。
- (エ) 清潔、清楚を心がけた教員の身だしなみ。

② 「基礎学力の習得」

- (ア) 授業時数を確保し、子供が「わかった」「できた」と実感できる授業。
- (イ) 授業改善推進プランに沿った指導計画と実践。
- (ウ) 東京ベーシックドリル「診断テスト」を用いた学期末ごとの習熟度検証。
- (エ) 「モーニングプラス（水木金 7:45～8:15）」「ぐんぐん教室」による基礎学力の向上。

- (オ) 校内研究、南鶴道場、授業参観週間、少人数指導、研修会による授業の工夫・改善。
- (カ) 「自主学習」を行い、家庭と連携した個に応じた家庭学習の定着。
- (キ) 市立図書館、学校図書館の活用、読書活動の推進。

③「学びの質を高める」(＝ESD)

- (ア) 「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の教員と児童双方の明確化。
- (イ) 交換授業による意図的・計画的な学びの工夫、授業の質向上。
- (ウ) 体験活動を出発点とした学びの深化。予定調和でない学習計画。
- (エ) 「総合的な学習の時間」の年間指導計画の履行と改善。
- (オ) 問題解決学習の繰り返しの実践による、資質・能力の向上。
- (カ) 発表の場を複数回設けることでの、実践意欲の喚起と継承。

(2) 「なかよく」できる児童を育てるために

①「道徳教育の充実」

- (ア) 指導の重点、B「親切・思いやり」の学級経営への盛り込み。
- (イ) 道徳教科書の活用。保護者、GT等の授業への協力の推進。
- (ウ) 学びを振り返ることのできるノートや掲示。
- (エ) 学年間で指導内容、指導方法、指導工夫の共有。学級での育成から学年での育成へ。

②「生活指導の充実と徹底」

- (ア) 学級の様子、保護者や学童、関係諸機関との情報交換を通じた児童理解。
- (イ) 言語環境の整備。(あいさつ、正しい言葉遣い)
- (ウ) 「学校生活の約束」を使ったルールの理解と順守。
- (エ) 「学級経営」「道徳授業」「生活指導講話」「いじめアンケート」「いじめ防止対策委員会」「いじめ防止基本方針」の粛々とした履行による、いじめの未然防止、早期発見、子供たちが安心・安全に過ごせる対応。

③「人との関わりを重視した教育活動の実践」

- (ア) 縦割り班活動、なかよし登校、1年生のお世話等を通じた異年齢児童との関わり。
- (イ) 行事や授業を通じた、地域の方々やお年寄り、外国の方々、保護者等との関わり。
- (ウ) 特別支援学級ふたば、特別支援教室わかば在籍児童との関わりと理解。

(3) 「たくましい」児童を育てるために

①「運動に親しむ資質や能力の育成」

- (ア) オリパラ教育推進校の実践や体育的行事、体育の学習、遊びを通じた運動する楽しさの実感。
- (イ) 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成。

②「体力の向上」

- (ア) 芝生校庭を活用した健康教育や保健指導。はだしの活動の推奨(芝生の日)。
- (イ) 体力テストの結果を踏まえた「一学級一実践」の実践。
- (ウ) 校内研究「体育科」を通じた、児童の運動意欲の喚起と運動の実践。

③「健康の保持増進」

- (ア) 定期健診および、日々の健康観察を通じた児童の健康状態のチェック。
- (イ) 「アレルギー対応委員会」による、アレルギー疾患児童の共通理解による事故「0」。
- (ウ) 「食物アレルギー緊急対応マニュアル」に基づいた実践的な教員研修の実施。

④「心のたくましさを身に付ける」

- (ア) 委員会活動、募金活動、芝生維持活動等、継続的な活動を通じたボランティアマイ

ンドを育む指導。

(イ) 行事、継続的な学習活動等を通した、くじけない心の育成と支援。

(4) 特色を活かした取り組み

①芝生の校庭

(ア) 芝生校庭での活動を通した、心の安定。

(イ) 芝生の維持管理活動を通した愛校心の育成。

②様々な体験学習

(ア) ビオトープや芝生、果樹のなる木、野鳥観察、近隣公園を活用した環境教育の推進。

(イ) 農園活動や小動物の飼育、校内に生息する昆虫等を通した、生命尊重の育成。

③オリンピック・パラリンピック教育

(ア) 藍の生育と藍染めの体験による、伝統文化、国際理解教育の実践。

(イ) ユネスコスクールとして、学習活動を校内や国内外で発表・報告することを通した、郷土愛、相互理解の育成。

(ウ) 幼保中、異年齢、他施設との関わりを通したボランティアマインドの育成。

(エ) オリンピアンや国際貢献活動に携わる方の講話や指導による、情操、実践力の育成。

④特別支援教室「わかば」との連携

(ア) 特別支援教室の指導法や教材教具の活用による、普通学級での合理的配慮の実践。

(イ) わかば教員と普通学級教員との交流による双方向の授業支援。

(ウ) ソーシャルスキルトレーニングの協働実施(1,2年生、1,2学期計10日間)。

(エ) 普通学級の給食時間にわかば教員配置。

⑤特別支援学級「ふたば」との連携

(ア) 特別支援学級児童の普通学級への交流活動による、互いの理解と共生。

(イ) 特別支援研修会の実施における、教員の指導スキルの向上。

(ウ) 普通学級における、ユニバーサルデザインを取り入れた授業研修。

⑥合唱団の活動

(ア) 学校に響く歌声により、音楽のすばらしさや歌う楽しさの実感。

(イ) やり遂げる充実感、発表での達成感の、がんばる姿としての見本。

(ウ) 地域での合唱披露による交流、連携。

5 安全指導の推進

(1) 日常的な安全指導

安全に生活する基本的事項を身に付けるための、繰り返し一声かける指導。

・朝や帰りの会、給食の時間等、ヘルメット着用

(2) 定期的な安全指導

「日常的な安全指導」で身に付けた知識等を体験的に理解させ深化させる指導。

・避難訓練、防災訓練、交通安全教室、セーフティ教室、長期休業前の指導等

(3) 特設する安全指導

自分や他者の安全を守るためのよりよい行動を考えさせる学習活動

・教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等